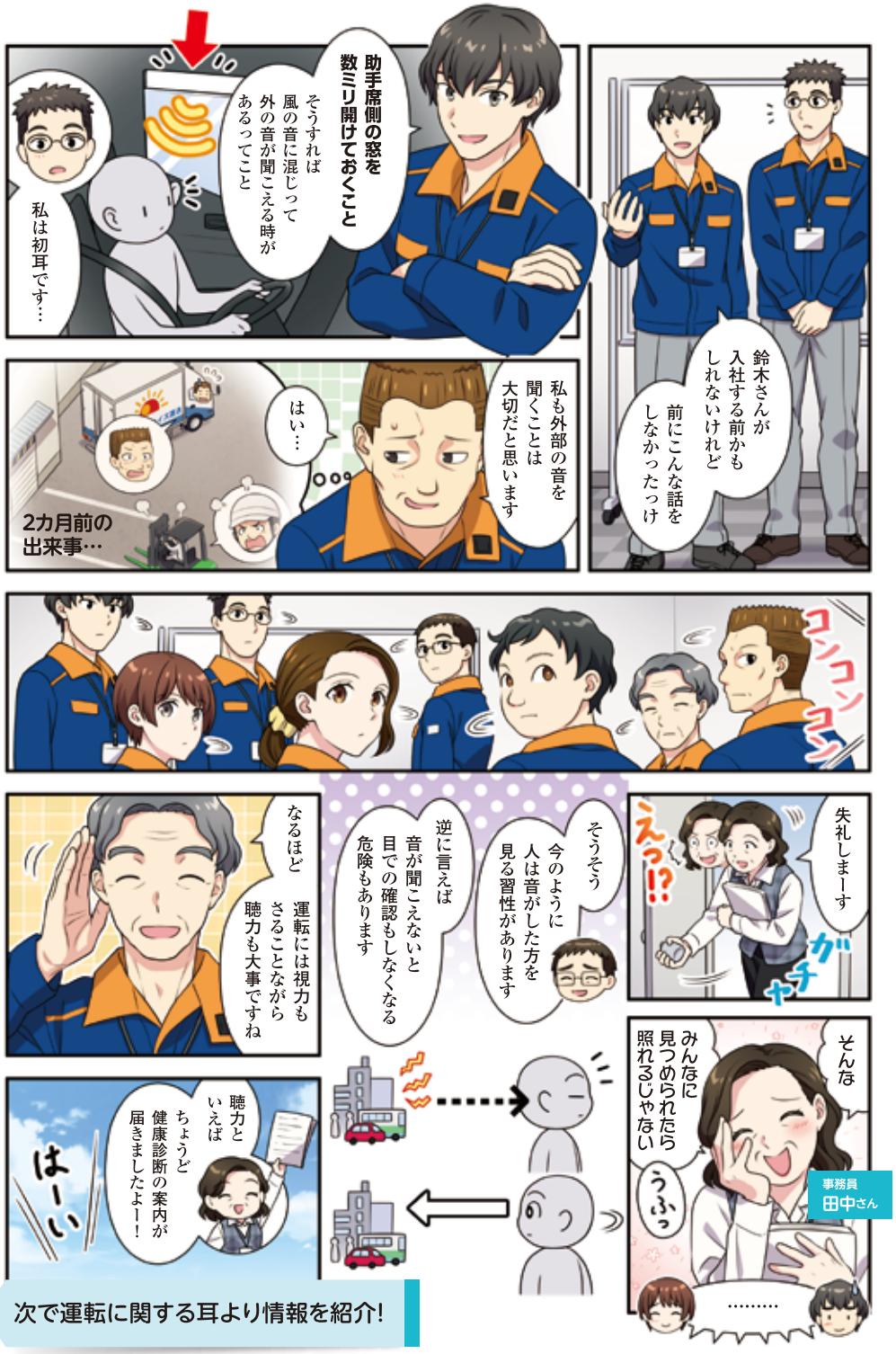

鈴木さんが入社する前かもしれないけれど前にこんな話をしなかったっけ
助手席側の窓を数ミリ開けておくこと
そうすれば風の音に混じって外の音が聞こえる時があるってこと
私は初耳です…
私も外部の音を聞くことは大切だと思います
はい…
2カ月前の出来事…
コンコンコン
失礼しまーす
えっ!?
ガチャ
そうそう今のように人は音がした方を見る習性があります
逆に言えば音が聞こえないと目での確認もしなくなる危険もあります
なるほど運転には視力もさることながら聴力も大事ですね
そんな
みんなに見つめられたら照れるじゃない
うふっ
事務員 田中さん
聴力といえばちょうど健康診断の案内が届きましたよー!
はーい
次で運転に関する耳より情報を紹介!

今日も快晴!
トラックドライバー日誌
「安全・安心」に欠かせない取り組みを、サンライズ運送に勤めるスタッフたちそれぞれのエピソードを通じて紹介。
第22話
死角に潜む危険には音にも頼って確認を
今月もこの班は皆さんのおかげで無事故を継続中ですが
残念ながら道の上に危険がないわけではありません
運行管理者 山岡大輔(39)
先日鈴木さんがあわや大事故になりそうなことがありました…
みんなでドラレコの映像を見ながら検証しましょう
では鈴木さん前に
はい
ドライバー 鈴木 隼人(31)
おとといの会社に帰ってくる途中で左折しようとしたら急に自転車がすり抜けるように現れて…
カチッ
パッ
同じような場面私も遭遇したことがあるわ
私たちが乗務するトラックの左側は死角になるからね
でもぶつかってないからもういいじゃない?
そろそろミーティングも終了かな
これ大事な話!
聞いてないと大事故になるわよ!
ふぁ〜
スッ

死角に潜む危険には音にも頼って確認を

車内ラジオの音が以前より大きくなっていませんか？

最近になり声が大きいと言われたことありませんか？

マンガ制作：ad-manga.com

安全確保に「聞こえの健康管理」もお忘れなく

耳は周囲360度からの情報収集が可能です。
聞こえの健康管理も、安全には欠かせないのです。

「ラジオの音量が大きい」、「声が大きい」など自分では気付きにくいもの。もし指摘されたら、耳の健康を疑ってみましょう。

聴力を使い情報収集力を向上

仮に耳を塞いでも、音の進入は完全に塞ぐことはできないため、良くも悪くも意図せずに周囲の状況が聞こえてくるものです。例えば後から名前を呼ばれた時、なじみのある声なら振り返る前に、声の情報で誰だか判断できるでしょう。また人は、音が聞こえた方を見る習性があり、まず音を、次にそちらを見るという順で状況を確認します。

しかし聴力は他人との比較が難しく、低下していても自分では気づきにくいといわれています。もしも周囲で「ラジオの音を大きくして聞いている人」や「方向指示器を出したまま走行している人」、または最近になって「声が大きい人」がいたら聴力が低下しているかもしれません。健康診断のタイミングを待つことなく、専門医に受診することを勧めてください。

ちょっとブレーク「耳より情報」

今回ご紹介した「音」情報が、安全確保にも大きな役割を果たすことをご理解いただけたでしょうか。

ではここで耳より情報。人は、見た記憶よりも聞いた記憶の方が残りやすいそうです。赤ちゃんが文字を覚える前に周囲の人が使う言葉を覚えることは、聞く記憶機能が発達しているからだとか。またかつての流行り歌を聞くと、その時代にタイムスリップしたかのような感覚になった経験はありませんか。「記憶」にも影響するといわれる「聞くチカラ」。安全指導の際は「ひとごと」に聞こえないように、記憶に残る「ひとこと」を発しましょう。

高柳 勝二（たかやなぎ かつじ）
株式会社 プロデキューブ代表取締役。1990年、運送会社にドライバーとして入社し、管理職を経て18年間勤務。2008年に株式会社 プロデキューブ設立。中小運送会社からの依頼が多い“提案型”研修は、受講されたドライバーや管理者からの「おもしろい・眠くならない・分かりやすい」との評判が口コミで広がり、各都道府県のトラック協会や協同組合等の研修会でも講演多数。2016年度から2022年度まで国土交通省「自動車運送事業に係る交通事故対策検討会」委員。

聞くことは見ることと同様、安全を確保する行動

死角は「確認しにくい」のではなく初めから「確認できない」と考え、「音が伝える情報」で補い安全確保につなげましょう。

左折時には音でも確認

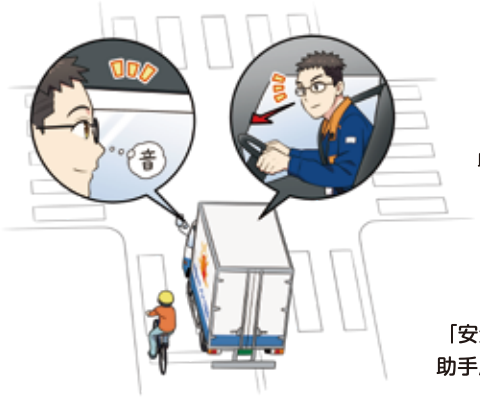
トラックに乗務中、左折時に多い事故パターンとして「自転車運転者との接触」が挙げられます。左折時、トラックを運転される皆さんは「超」減速で交差点に近づくのに対し、自転車運転者はトラックの速度より速く後方から迫ってくるため、確認できずに接触してしまうのです。

トラックでの左折時には、「確認しにくい」ではなく、初めから「確認できない」ポイントがあると考えて、例えば「音」からの情報を使いましょう。その方法として助手席側の窓をほんの数ミリでもよいので、常に開けておきます。風の音に混じってバイクや自転車を運転する音が聞こえてくれば、音で得た情報を元にして、聞こえた方向を追うように見て確認することができます。

外部の音から情報を得ながら運転することに慣れると、マイカーの運転時も同様に少し窓を開けたり、ラジオの音量を小さめにして運転するようになったという体験談を耳にします。さらに「音を確認」することは、バック走行時に両窓を開けて安全確認をすることにも通じるのです。

左折時は聞くこと、見ることで状況を確認

左後方は死角になるため、左折時は外の音から周囲の状況を把握しましょう。
さらに体ごと左側に振って右目で確認するイメージで。



左折時

「音で確認」
助手席の窓を少し開けておく

▼

「見て確認」
体をしっかり左側に振り、
視覚を視界に変える

「安全窓」でも確認できるよう、助手席側の整理整頓を忘れずに！